

3月17日

主教パトリック

Patricius

(385/390~461頃)

～アイルランドの守護聖人～



「パトリキウス」

アイルランドの守護聖人である彼は非常に人気の高い人物であるが、生涯と業績については不明な点が多い。彼の自伝「告白」に少し触れられている程度である。

人名事典等ではパトリキウスと表記される彼は、ブリテン(イギリス)生まれで祖父は司祭、父は役人をしているかたわら教会の助祭をしていた。当時はまだ、司祭が独身でなければならないわけではなかった。

16歳のころ、パトリックはアイルランドの海賊に捕らえられ、奴隷として売られ、豚を飼う生活を強られる。しかしその生活の中で彼は、「異国において神は私の不信仰な目を開いてくださった」と神に感謝し、強い信仰を持つこととなる。

奴隷生活が始まって六年がたった時、彼は故郷に帰れる夢を見、それを実現すべく360kmを逃亡する。イギリスの海岸に着いた彼は、通りがかりの船に乗り、故郷へと帰っていく。

その後、彼は現在のフランスにあるレラーンズの修道院で25年を過ごす。その頃は自分をさらい、奴隷にしたアイルランドに対しては嫌気を覚えていたが、次第にその人々の救いが気になっていく。そしてアイルランド宣教の使命を与えられた彼は435年頃、アルマーを拠点として司祭として

活動していく。

しかしその道のりは平坦ではなく、魔術がはびこっていたアイルランドにおいて、10回も逮捕されまた暗殺されそうにもなる。

だがその中においてパトリックは、2000人の司祭、200人の司教を叙階し、司教を修道院の院長とした。そして人々には修道士になることを勧めていくが、この教会と修道院が結びつく形は、アイルランド特有の形態である。

アルマーに大聖堂を建て自ら大司教になった彼は、自分をさらった海賊団の頭に、強く悲しい抗議の手紙を送る。そこには奴隷を解放しないと神の罰が下ることも記したが、海賊の頭は無視した。その結果、数日後に気が狂ってしまったという。

(Y)

<特禱>

信ずる者の光、魂の牧者である全能の神よ、あなたは、その言葉によってあなたの羊を養い、その模範によって彼らを導くために、しもべ、主教パトリックを公会の主教に召されました。どうかわたしたちに恵みを与え、信仰を守り、その生涯に従うことができますように、主イエス・キリストによってお願いいたします。

アーメン